

BCP策定支援ワークショップ結果概要

1 日時・場所 (全5回とも 13:00~17:00)

- 第1回 平成29年11月1日(水)
京都府庁職員福利厚生センター3階第1~3会議室
- 第2回 平成29年11月21日(火)
京都府宮津総合庁舎内会議室
- 第3回 平成29年12月19日(火)
京都府宇治総合庁舎内会議室
- 第4回 平成30年1月23日(火)
京都府綾部総合庁舎内会議室
- 第5回 平成30年2月7日(水)
京都府庁職員福利厚生センター3階第1~3会議室

2 主催 京都府

3 後援 京都府商工会議所連合会、京都府商工会連合会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、京都府中小企業団体中央会、京都商工会議所、宮津商工会議所、綾部商工会議所、宇治商工会議所

4 講師 東京海上日動火災保険株式会社

5 参加者数 合計 64名

- 内訳 第1回 14名
- 第2回 14名
- 第3回 9名
- 第4回 11名
- 第5回 16名

※BCP(事業継続計画)の策定、見直しを検討している一般企業を対象。
また、全ての回で3~5グループ程度に分かれて実施。

6 内容

(1) 京都府の地震被害想定及びBCPの概要

- ・京都府地震被害想定調査に基づく想定震度や液状化危険度分布について説明。
- ・BCPを導入している企業の緊急時及び事後の対応例について説明。

(講師コメント)

- ・京都府内で災害が発生した際に自社にどのような被害が及ぶかを想定しておいていただきたい。

(2) 机上地震災害シミュレーション

(進め方)

- 1 参加者自身が企業の総務部長であり、巨大地震が発生したという想定のもとで、職員の安否確認はどうするか等の状況シナリオについて対応策の判断等を行う。
- 2 各シナリオで気付いたことをメモに書き出し、グループ内で共有する。
- 3 状況シナリオのうち、下記の2つのシナリオについて各グループで議論。
 - ①被災した自社建物内にいる負傷者を救出しようと職員が建物内に入ろうとしているが、行かせるべきか。
 - ②東京へ出張中の社長とようやく電話が繋がったが、通話状況が不安定であるため2分しか話せない場合、何を話すか。
- 4 講師がBCPの手引きを使用して、各状況シナリオのねらいについて説明を行う。

(講師コメント)

- ・参加者自らがシミュレーションを通して、災害発生時の対処に必要な準備や情報に気付く

ことで、自社のBCP策定・見直しにつなげていってほしい。

・シナリオの判断について正解はないので、あらかじめ各企業で取り決めておいていただきたい。

(3) 重要業務判定のケーススタディ

(進め方)

- 1 売上、シェア、収益性等の異なる3つの事業のうちどの事業を優先的に対応すべきかを各グループで議論。
- 2 参加事業者が自社事業の重要業務を決定し、目標とする復旧時間を決定する。

(講師コメント)

・災害時は平常時の経営資源の一部しか利用できないことも考えられ、その場合は重要業務を選択し、優先的に実施しなければならない。将来性や競合会社の有無、賠償請求の可能性等を考慮して重要業務を決定されたい。

(4) BCP策定シートの解説

・ワークショップ参加後に各社で記入、検討するための4種類のBCP策定シートを配布。(うち3種類は東京海上日動火災保険株式会社作成、1種類は京都府作成)

(講師コメント)

- ・企業のBCPの策定状況に応じて、シートを使い分けていただきたい。
- ・京都府のBCP策定シートには、大規模災害発生時にも京都の活力を維持・向上させる「京都BCP」の考えを踏まえた地域連携の項目を独自に追加していることに留意されたい。

(5) その他

参加企業の希望があれば、東京海上日動火災保険株式会社が別日に個別企業を訪問し、BCPの策定支援や策定したBCPの確認等のアフターフォローを実施する。

7 参加者の意見

BCPがないと災害時に迅速に判断、行動できないということを体感できたため、今後BCPの策定、見直しをしていきたいという意見が多かった。